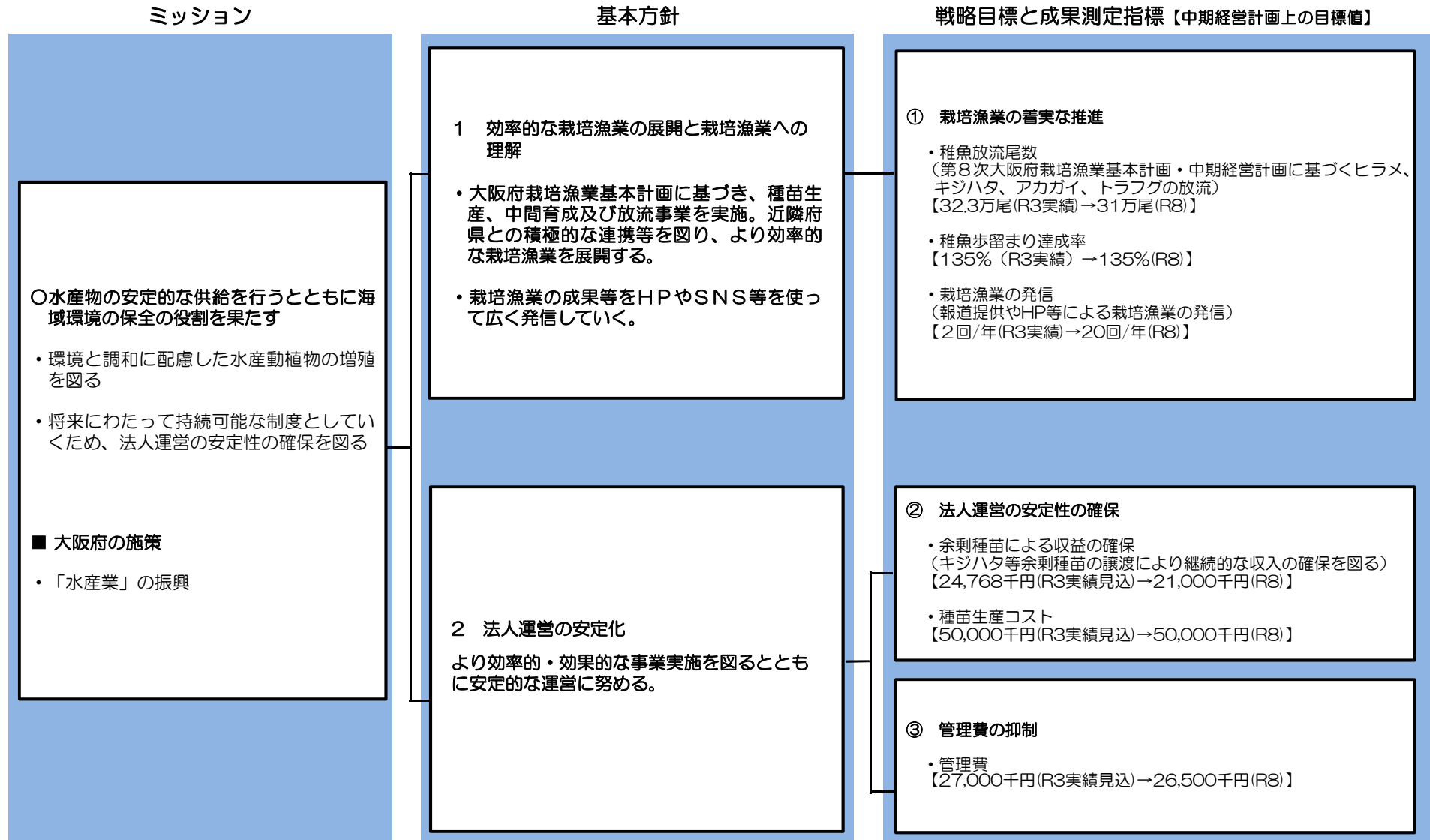


法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
作成 (所管課)	環境農林水産部水産課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

○ 令和3年度の経営目標達成状況及び令和4年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R4 目標値	最終年度 目標値	
① 着実な栽培漁業の推進	稚魚放流尾数		万尾	50	<28.4>	<30.0>	<32.3>	↓26.0	50	-	31.0	R3年度まではヒラメ、キジハタ、アカガイの3魚種。R4年度からは、トラフグを加えた4魚種を対象とし、中期経営計画の最終年度の目標達成に向け、段階的に放流尾数を増加する目標とした。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、 経営上の位置付け	<p>○大阪府海域ではベイエリア開発等により、親魚の産卵、稚魚の成育の場となる藻場や干潟が減少したため、この時期を人為的に管理する栽培漁業の取組みは極めて重要な政策課題。</p> <p>○府の水産課のマスタープランである「新・大阪府豊かな海づくりプラン」や「第8次大阪府栽培漁業基本計画」において、栽培漁業の推進、放流効果の高い魚種への特化を重点施策として位置づけ。</p> <p>○当法人でも、府内の漁業の発展と漁業者の生活安定を図る観点から、大阪湾における水産資源の回復・維持と漁業生産の向上を目指すこととしている。</p>											
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○令和4年度から始まる第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の新規の放流魚種(トラフグ)の安定的な放流を行うため稚魚の育成技術の開発や放流適地の把握など知見を蓄積する。</p> <p>○生産・放流技術が確立した魚種については、生産コストを削減するための技術の開発、他府県との連携を進める。</p> <p>○新たに取組む魚種(メバル)については、中間育成技術の確立や放流適地、効果把握について環境農林水産総合研究所と連携を図りながら進める。</p>											
活動方針	<p>○令和4年度から始まる第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)に基づき種苗生産を確実に行う。</p> <p>○本事業を円滑に実施するため、施設の維持管理や推進体制の維持・構築に留意する。</p> <p>○大阪府及び地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターとの業務分担、連携によって、円滑に栽培漁業を推進する。当法人においては、研究所と連携し、より放流効果の高い健全な種苗の生産・育成を行い、資源増大を図るとともに、大阪府が中心となって、漁獲された放流魚の付加価値向上を図る。</p> <p>(業務分担) >大阪府:栽培漁業基本計画の策定及び進捗管理、栽培漁業推進協議会の運営等 >研究所:栽培対象種放流後の効果把握のための調査研究、新魚種の種苗生産放流技術開発、基金への指導、施設の維持管理 >基金:栽培漁業基本計画に基づく種苗生産放流事業の実施</p>											
										<p>○第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の遂行</p> <p>○栽培漁業センター事業充実のための施設、推進体制の検討</p> <p>○近隣府県との連携 ・稚魚の餌となるワムシの安定的な確保 ・余剰種苗交換等効率的な栽培漁業の展開</p> <p>○第8次計画対象魚種の生産・放流技術開発の推進 ・ヒラメ:第7次計画に引き続き、冬季の親魚の仕立て・採卵を行わず、春季に稚魚を購入することで、冬季の使用燃油の削減等、効率的な飼育を行う。 ・キジハタ:目標放流数10万尾を安定生産するための親魚の適正管理による卵の確保、定期的な間引きによる歩留まりの向上を図る。 ・アカガイ:30mmの大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の向上を図る。 ・トラフグ:適正な中間育成の実施により放流後の生残率を高める。</p>		

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R3 ウエイト	R2 実績値	R3 目標値	R3 実績値 〔見込値〕	R4 目標値	R4 ウエイト	中期経営計画 (R4～R8)		R4目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R4 目標値	最終年度 目標値		
① 栽培漁業の着実な推進	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1)/計画歩留まり率(*2)) (*1)R3実績歩留まり率=放流尾数/種苗生産尾数=67.6% (*2)府栽培漁業基本計画の歩留まり率=50%		%	20	131.6	131.6	135.2	↓135.0	15	135.0	135.0	栽培漁業センターの種苗生産能力や技術レベル及び昨年度の実績値を踏まえて中期経営計画の目標値を設定	稚魚の餌となるワムシの安定確保や栽培技術力の向上等による効率的、効果的な種苗生産・放流の実施
	栽培漁業の発信 (報道提供やHP等による栽培漁業の発信)	☆	回	—	(2)	—	(2)	20	5	20	20	各魚種(ヒラメ、キジハタ、アカガイ、トラフグ、メバル(技術開発魚種)の5魚種)について年間4回程度を想定して設定	種苗生産現場や放流風景等を報道提供やHP、SNS等により発信する

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 法人運営の安定性の確保	余剰種苗による収益の確保		千円	10	18,492	40,000	×〔24,766〕	↓21,000	10	21,000	21,000	稚魚を生産する際にできる余剰種苗の生産量により目標値を設定	産卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技術の向上による生残尾数の増加及び譲渡先の開拓
	種苗生産コスト		千円	10	69,714	48,920	×〔50,000〕	↓53,000	10	53,000	50,000	R3年度実績値にR4年度に予定している栽培漁業センターの補修工事の負担金が約6,000千円増となるが、その他の経費(消耗品費等)の削減努力を行い、3,000千円まで圧縮することを目標に設定	R1年度から取り組んでいる一部魚種の種苗生産方法の見直しによる生産コスト削減を継続するとともに、その他経費(消耗品等)の削減努力を行う。 ※栽培漁業センターの補修工事にかかる負担金(R2:20,794千円、R3:0千円、R4:6,000千円)を含む
③ 管理費の抑制	管理費		千円	10	28,388	28,388	〔27,000〕	27,000	5	27,000	26,500	中期経営計画に基づき目標値を設定	事務経費等の削減

【凡例】

- ・☆はR4年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値
- ・< > 内の数値は、ヒラメ、アカガイ、キジハタの3魚種の数値

法人名

公益財団法人 大阪府漁業振興基金

CS調査の実施概要

○令和3年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
新型コロナウイルスの影響で体験放流等ができなかったため、実施せず				

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
	(結果を踏まえ実施した取組)
	(今後実施予定の取組)

○令和4年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
体験放流を通じて栽培漁業等の認知度を把握する	体験放流へ参加した小学生等に対してアンケートを実施	釣りイベント等参加者	50名程度	令和4年8月ごろ

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
余剰種苗による収益の確保	千円	40,000	24,768	▲ 15,232




未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）						要因分析を踏まえた今後の対応
①	大口の購入先が購入を断念したため	今年度については、余剰種苗は当初の予定どおり確保でき、キジハタの約90,000尾について、約40,000千円の収入を見込んでいた。しかし、想定していた大口の購入先が予算の確保ができず、約35,000尾については、購入先が見つからなかったため、約15,000千円の減となった。						キジハタの放流効果について説明を行うなどにより、瀬戸内海周辺の漁業協同組合等の新たな小口の販売先を複数確保していく。（R4.4に新たな販売先が1件決定）
	項目名	余剰種苗譲渡収入	R3当初想定値	40,000	実績値	24,768	差	
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値		差	

■ 目標値未達成の要因について

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度目標値	R3年度実績値	目標値との差
種苗生産コスト	千円	48,920	50,000	▲ 1,080

未達成の要因		要因分析（要因と考える根拠）					要因分析を踏まえた今後の対応	
①	一般管理費の増	当初、設備点検の委託のため、721,600円の支出を見込んでいた。しかし、その点検によりろ過槽の砂が予想以上に汚れていることが判明し、洗浄作業を行う必要が生じたため、1,430,000円の経費が増加した。					 今後は、定期的に一部の砂の洗浄を行うことにより経費を抑えていく。	
	項目名	設備点検費	R3当初想定値	721,600	実績値	2,151,600		
②								
	項目名		R3当初想定値		実績値			
③								
	項目名		R3当初想定値		実績値			

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
稚魚放流尾数	万尾	32.3	26.0

〔2〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
稚魚歩留まり達成率	%	135.2	135.0

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>・アカガイについては、令和3年度は10万個を放流していたが、これまでの放流調査により半数でも放流効果が期待できることがわかったため、令和4年度は5万個と設定。</p> <p>・ヒラメ及びキジハタについては、中期経営計画の最終年度に向けて徐々に放流尾数を増やしていくこととしている。ヒラメについて、令和3年度は生残率が高く目標値を2万3千尾上回ったものの、生残率は各年度の環境や稚魚の状態、疾病の発生状況等に左右され2万尾程度の増減はあることから、令和4年度は、中期経営計画の目標値の各10万尾と設定。</p> <p>・新魚種のトラフグについては、現段階の技術レベルや水槽の規模等を考慮した放流尾数の1万尾と設定。</p> <p>上記の考え方より、合計26万尾の放流を目標とした。</p>
--	--

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>栽培漁業センターの種苗生産能力や技術水準を考慮すると、令和3年度の実績が概ね最高値であるため、昨年度の実績値を踏まえて中期経営計画の目標値を設定した。</p>
--	--

法人名

公益財団法人 大阪府漁業振興基金

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
余剰種苗による収益の確保	千円	[24,768]	21,000

マイナス (現状維持) 目標の考え方	過去5年間の実績を踏まえ、2022年3月策定の中期経営計画に則した数値とした。
--------------------------	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
種苗生産コスト	千円	[50,000]	53,000

マイナス (現状維持) 目標の考え方	種苗生産コストは、人件費、消耗品費、委託費、負担金等の合計となっている。そのうち、負担金については、令和2～3年度に予定していた、大阪府立環境農林水産総合研究所の行う栽培漁業センターの補修工事が1年延長となったため、それに係る経費の負担金約6,000千円が増となるが、その他の経費（消耗品費等）の削減努力を行い、3,000千円まで圧縮することとした。
--------------------------	---

■ 令和3年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
管理費	千円	[27,000]	27,000

成果測定指標	単位	R3年度の実績値(見込値)	R4年度の目標値
/			

マイナス (現状維持) 目標の考え方	令和4年度については、人件費等の削減を見込めないことから、今年度見込み額と同額とした。(中期経営計画の数値と同額)
-----------------------------------	---

マイナス (現状維持) 目標の考え方	/
-----------------------------------	---